

可愛いボール

北條民雄

青空文庫

ミコちゃんの小犬は、ほんとうに可愛いものです。丸々と太った体には、綿のように柔かい毛がふかふかと生えています。

名前はポールと言います。これはミコちゃんが、三日も考えてつけたのでした。ポールと言うのは、フランスの美しいお歌を作る先生のお名前です。

ミコちゃんはポールが大好きです。ポールもミコちゃんの言うことは何でも良く聞きます。又ミコちゃんの行く所へは、どんな所でも家来のように従ついて行きます。

「ポール！ ポール。」

と呼ぶと、どこにいてもポールは一目散に駈けて来て、ミコち

やんの命令を待っています。

御近所のおばさん達も、ポールを見ると

「可愛いポール。可愛いポール。」

と呼んでは、ポールの一等好きなカルケットをごちそうしてくれます。そしてミコちゃんを見ると

「なんと言うお利口なミコちゃんでしょう。」

と言って、口々にほめてくれるのです。それはポールがまだミコちゃんのお家へ来ない前ポールを助けてやったからです。

ミコちゃんがポールを助けたのは、雪でも降りそうな寒い日の夕方でした。お父様のお手紙を持ってミコちゃんはポストまで行

かなければなりませんでした。北風がヒューヒュー吹いて手でも足でも凍ってしまいそうです。それでも元気よく駆けて行きました。

すると赤いポストの横で、大勢の人が、何か口々にわいわいと言っています。それに混って大変悲しそうな犬の声も聞えて来るのでした。

どうしたのかしら？　とと思って側へ近寄って見ると、それは野犬狩をしているのでした。

この寒いのに、一人は頭に穴のあいた麦藁帽子をかむって、太い棒を持っています。もう一人はベトベトとよごれたオーバアを着て、恐しい眼つきであたりをにらんでいます。手には強そうな

綱を持っています。

すぐ横には荷車が一台止めてあります。荷車の上には、大きな箱がのせてあつて、犬をつかまえると、この箱の中へ押し込んでしまうのです。

恐しい眼つきをした男が言いました。

「まだ朝から二十匹しか捕らんぞ。」

穴あき帽子をかむつた方が答えました。

「うん。もう十匹は捕りたいなあ。」

それを聞いて、ミコちゃんは、思わずぞつとしました。

車の上の箱の中からは、苦しそうにうんうんなる声や、お母様のおちちがほしくなったのでしよう、仔犬の泣き声が、キャン

キヤンと悲しそうに聞えて来ます。

その時、まだ生れて間もないようなちいぢやな仔犬が、ちよこちよここと駆けて来ました。

きつと箱の中の、お友達の泣き声を聞いて、どうしたのか、と思つて出て来たのでしよう。仔犬は大きな箱を眺めて、不思議そうに考え込みました。

恐しい二人の犬殺は、やがてこの仔犬を見つけてしまいました。「おや、こんな小さいのが出て来たぞ。」

「これはすてきだ。どれ、捕えてやろうか。」

二人の犬殺は、両方から、仔犬をかこんで、はさみうちにしようとしています。

「まあ、可哀そうだわ。」

ミコちゃんは思わず声を出してしまいました。すると、その声を聞いたのか、仔犬は急に走って来て、ミコちゃんの足にじやれつきました。急いでミコちゃんは仔犬を抱き上げました。

それを見た二人の犬殺は

「こら！ 早く犬を出さんと、お前も、箱の中へぶち込むぞ！」
と叫んで、ミコちゃんをにらみつけました。

「いや、いやだわ。」

「どうしても出さんと言うんだな！」

大声で犬殺はそう言うのと、無理にミコちゃんの手から仔犬をもぎ取ろうとします。ミコちゃんはカーパイに仔犬を抱いていまし

だが、大きな男にかかつては、かないません。とうとう取り上げられてしまいました。

「さあ箱の中へはいつておれ！」

可哀そうに、仔犬は首をつかまれて箱の中へ投込まれました。ミコちゃんは可哀そうで可哀そうでなりません。なんとかして助けてやろうと決心しました。

「ね、おじさん。あたいがその犬飼うわ。だから下さいな。ね、おじさん、いいでしょう。」

ミコちゃんは一生懸命にたのみました。けれどだめです。

箱の中へ入れられた仔犬は、急に悲しくなったのか、キャンキャンキヤンと泣いて、のどが破れて血が出るかと思われる程です。

早くお家へ帰って、お母様のおなかの下で温まりたくなつたのでしよう、箱の中から、板を引つ掻いては泣くのです。けれど仔犬の力ではどうすることも出来ません。

それを見ていると、ミコちゃんも、なんだか悲しくなつて来ました。

その時、黒いマントを着たやさしいおまわりさんが来て、ミコちゃんの頭をなでながら、

「感心な児じゃ。よしよし。おじさんが助けて上げよう。」

と言つて、箱の中から、さっきの仔犬を出してくれました。さあ、ミコちゃんは大よろこびです。

「おじさん、ありがとう。おじさん、ありがとう。」

と、いくどもいくども頭を下げてお礼を言いました。

この可哀そうな仔犬がポールだったのです。それからミコちやんとポールは大の仲好になりました。ポールは何時も、ミコちやんのお家で幸福そうに遊んでいます。

それを見るとミコちゃんは、あの時ポールを救ってやって、ほんとうに良かったと、思うのでした。

青空文庫情報

底本：「定本北條民雄全集 上」創元ライブラリ、東京創元社
1996（平成8）年9月20日初版

入力：もりみつじゅんじ

校正：松永正敏

2002年5月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

可愛いポール

北條民雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>